

## 第4回 下野市地域福祉計画策定委員会 議事録

### 1 開催日時

平成24年2月1日(水) 午後2時00分～午後3時30分

### 2 開催場所

下野市役所石橋庁舎303会議室

### 3 出席者(委員13名)

(委員)

荒木委員長

小林委員、金島委員、高井委員、伊沢委員、曾根委員、片山委員、梶井委員、田中委員、茂木委員、小平委員、阿部委員、青柳委員

(欠席)

澁田副委員長、君島委員、倉井委員、小島委員、久野委員

(事務局)

田中健康福祉部長、神戸社会福祉課長、蓬田課長補佐、添野主査、五月女主事、ジャパン総研

### 4 次第

1 開会

2 あいさつ

3 議題

(1) 第3回策定委員会会議録について

(2) 計画素案に係るパブリックコメントの結果について

(3) 計画案について

(4) その他

4 閉会

## 5 あいさつ

### 開会のあいさつ

事務局	ただ今より第4回下野市地域福祉計画策定委員会を開催いたします。
-----	---------------------------------

### 委員長あいさつ

委員長	皆様こんにちは。今日は寒い中、ご参集いただきましてありがとうございます。
-----	--------------------------------------

## 6 議題（要旨）

### （1） 第3回策定委員会会議録について

曾根委員 事務局	11ページの最後の行の「関心」が「感心」になっています。修正します。
-------------	------------------------------------

ほかに修正等はなく、ホームページへの掲載が了承された。

### （2） 計画素案に係るパブリックコメントの結果について

事務局より、パブリックコメントでの市民の意見はなかったとの説明が行われた。

### （3） 計画案について

事務局及びジャパン総研より資料「下野市地域福祉計画 計画案」に基づき説明が行われ、引き続き質疑応答が行われた。

委員長	今日は、第2章以降について、75ページから順に検討したいと考えています。
阿部委員	まず、75ページの南河内中学校区について、ご意見はありませんか。懇談会では意見があまり出ませんでしたので、これに従って、その地区の自治会の活用をしなければならないということではなく、これは住民が考えている地域の在り方で、このような身近な問題に取り組むと捉えればいいのではないかと思います。
事務局	先ほどの説明に補足します。地区別計画の地図について、この地図は4つの中学校区に分けているのですが、75、79、81ページの地図は旧地区割りのままになっていますので、修正いたします。
委員長	ほかに南河内中学校区についてご意見はありませんか。なければ、南河内第二中学校区に進みたいと思います。ご意見等はありませんか。
田中委員	住民懇談会でこのような意見が出たということですが、福祉課が主催の懇談会では、あまり本音の部分が出てこないのではないかと感じていま

事務局	<p>す。例えば、「地域の現状と課題」の「自治会活動への理解の促進」に、自治会に加入しない人が増加しているとか、役員のなり手の不足という問題があると書かれていますが、そうになってしまう理由を、懇談会ではすくい上げられていないと思うのです。</p> <p>自治会に加入しない大きな理由の1つに、現状の自治会活動が今の住民の生活に全く合っていないということがあると思いますが、そのような状況を改善することなしに、理解促進とか加入促進を図るということだけを書いても、この問題は解決できないと考えます。ですので、ここはもう少し踏み込んで、「住民の生活に合わせた自治会活動に合理化を図りながら」というような文章を加えていただきたいと思います。</p> <p>自治会はあくまで手段の1つであって、それが全てではありませんので、このような表現にとどめています。1つの課題として考えていただければと思います。</p>
田中委員	それは分かりますが、自治会活動をこのように大きく取り上げて記載するのであれば、もう一步踏み込んで言及することが必要だと思います。
曾根委員	<p>私は南河内第二中学校区の住民懇談会に参加したのですが、残念ながら若い方は参加されていませんでした。</p> <p>我々の世代としては、3月11日の大震災などを見て、やはり地域での絆や交流はとても大事だと感じるので、ここに書かれているとおりでいいと思っているのですが、おそらく若い方は自治会に対する意識が違うので、今のようなご意見が出るのだと思います。私のような世代には若い方の感覚は分かりにくいので、できればもっと具体的に、どのように書いてほしいのか、どう変えればいいのか、自治会加入促進でないとなれば、ほかにどのような方法があるのかということをご提案していただければと思います。</p>
委員長	今、頂いた意見は「地域の現状と課題」の中に反映していただきたいと思います。
ジャパン総研	<p>ご意見のとおり、懇談会には住民の一部しか参加されていませんが、全体を整理する中でも、南河内第二中学校区ではこのような課題は強く挙がっていました。</p> <p>しかしながら、確かに、ここでは懇談会の意見だけを反映した書き方になっていますので、今のご意見も踏まえて、世代によって、その問題に対する捉え方が違うというような表現も含めた書き方に変えたいと思います。</p>
委員長	そうすると、78ページの「取り組みの方向性」についても、修正されるのですか。
ジャパン総研事務局	<p>検討したいと思います。</p> <p>今回の震災をとおして、誰もが改めて、絆、人のつながりの大切さを再認識したと思います。それを受けて、下野市でも自治会単位で防災計画を</p>

田中委員	<p>見直していただき、地域の人たちで地域を守っていくという取り組みを始めています。そのベースになるのは人のつながりです。人のつながりや世代間交流の場として自治会は重要な位置付けにあるというのが、この項目の趣旨だと思います。</p> <p>77 ページに「自治会活動に参加しない人が増加している」とありますが、その原因として、そもそも交流が少なくなっているということがあります。なぜ交流が少なくなっているかという、交流によって生まれる負の部分があるからです。つながるどころか、逆に、煩わしいことや、人が傷つくようなことが起こっているのです。そのような現実をきちんとくみ上げない限り、絵に描いたもちになってしまうと思います。</p> <p>私は、交流は持ったほうがいいとは思っています。その手段として自治会活動の参加促進を挙げられるのであれば、「思いやりの気持ちを持ちながら、交流を密にする」のような文を入れて、思いやりの気持ちを持つということを大前提にしているという方向性を出していただきたいと思えます。</p>
事務局	<p>今のご意見にあった「思いやり」ということも、地域福祉計画の根幹にある大切なキーワードと考えていますので、この中に反映できるように工夫したいと思います。</p>
曽根委員	<p>田中委員にお尋ねします。交流による負の部分があるために、交流を避けるとか、自治会に参加しないというのが現実だというご意見でしたが、お互いに、相手のことを想像するとか、思いやるということができさえすれば、交流は大事だと思われるのですね。</p>
田中委員	<p>そうです。交流は必要だと思っています。ただ、ここでは交流ばかりが書かれていて、その前提となる思いやりの気持ちや、相手を尊重ということが抜けているように感じました。</p>
曽根委員	<p>分かりました。その部分を明確にしておかないと、交流やつながりということを書くこと自体に違和感を感じられているような誤解を生じる恐れがあると思い、確認の意味でお尋ねしました。</p>
委員長	<p>思いやりの気持ちというキーワードについても、何らかの形で反映していただければと思います。</p> <p>ほかに南河内第二中学校区についてご意見はありませんか。</p>
小平委員	<p>78 ページの、「取り組みの方向性」の2の「地域交流をしよう」の3つ目の の中に、「様々なことを話し合える土壌をつくらう」とありますが、これから地域のみんが幸せに暮らすためには、いろいろなことを話し合い、助け合える土壌をつくることは非常に大事だと考えます。そういう意味でも、交流の場をつくることは最も重要だと思います。今後、高齢化がさらに進んでいく中で、つながりがないのは大変不安です。この「土壌をつくる」ということは、今やらなければならないことだと思います。</p> <p>また、自治会に参加されない理由として、私の地区の場合は、高齢者の</p>

伊沢委員	<p>ひとり暮らしであるため、加入されないというケースも多いようです。</p> <p>私の住んでいる国分寺中学校区は自治会の加入率は 66.7%しかありません。また、子ども会に入っていない方も多く、交流が持てない状況なので、自治会、子ども会等に入っていない方に対しては、市のほうから直接情報提供をしていただければと思っています。また、今、ひとり暮らしの高齢者の話が出ましたが、自治会等に参加されていない高齢者が孤立してしまわないよう、対処していただきたいと思います。</p> <p>せっかく、この策定委員会という話し合いの場があるのに、何も変わらなかったのでは意味がありませんので、自治会、子ども会に入っていない人については、今後、特に配慮してほしいと要望します。</p>
事務局	<p>自治会については交通安全課の担当となりますので、詳しくは分からないのですが、過去に議員から同様の質問があった際には、自治会に入っていない方には、直接、もしくは何らかの手だてで行政情報や地域の情報を伝えていると回答していました。現状、加入をされていない方は多くおられますので、その辺りについては適切に対応していると思います。</p>
委員長	<p>ほかに南河内第二中学校区についてご意見はありませんか。</p> <p>なければ、79 ページの石橋中学校区に進みたいと思います。ご意見等はありませんか。</p>
小平委員	<p>80 ページの 1 の 3 つ目の に、「自治会などを中心に世代間がふれあえる場を設けよう」とありますが、石橋中学校区はコミュニティセンターが 6 カ所と、他の地区よりたくさんあるので、このコミュニティセンターをもっと活用できるように考えるといいのではないかと思います。</p>
事務局	<p>石橋地区はコミュニティセンターが 6 カ所となっていますが、これは他地区の公民館くらいの規模のもので、一般的なコミュニティセンターとはニュアンスが違ったものです。</p>
片山委員	<p>「地域の現状と課題」について、同じ地区内でも地域による違いがあると思います。私は石橋中学校区内の若林地区に住んでいるのですが、ここに書いてあることと現状はかなり違ってきます。若林地区や古山地区は、若い人との交流がとても盛んで、運動会をはじめとするイベント等に若い人が積極的に参加しておられ、自分が高齢になっても安心だと感じています。</p>
茂木委員	<p>資料編の 97 ページの住民懇談会ところを見ると、石橋中学校区の「地域の魅力」として、「子ども会育成会や老人会などの地域活動が活発に行われている」、「高齢者が元気に活動している」ということが挙げられており、その上で、「地域の優先課題」として、「世代間の交流を図る。地域で子どもや高齢者を見守る。高齢者が地域で安心して元気に暮らせる環境づくり」が挙げられています。このことから、79 ページの「地域の現状と課題」は、現状でもそういう魅力多い地域であるけれども、それをさらに良くしていきたいという意味で、このような項目が挙げられているのでは</p>

<p>ジャパン総研</p>	<p>ないかと思えます。</p> <p>今のお二人のご意見を伺って、この79ページだけを見ると、確かに、誤解を与えるような書き方になっていると思えますので、このように書いた過程が分かるように表現を修正したいと思います。</p>
<p>委員長</p>	<p>続いて、81ページの国分寺中学校区に進みたいと思えます。ご意見等はありませんか。</p>
<p>小平委員</p>	<p>81ページの「地域の現状と課題」の「子どもと高齢者を見守り」の2つ目に、「民生委員児童委員を知らない人が半数以上いる」とありますが、私が民生委員をした時も、確かに、民生委員を知らない人が多かったです。そこで、私の地区では、班長会議のときに民生委員にも出席してもらうようにしました。そのような周知の方法もあると思えます。</p> <p>次に、コミュニティセンターでの活動について、国分寺中学校区では大変活発な活動をしていますので紹介したいと思います。例えば、ふれあいサロンではボランティアが20人以上もおられ、全員が来られると高齢者よりも多くなるので、4班に分けて順番にやってもらっているような状態です。そのようなサロンが多くありますし、コミュニティセンターでも卓球や料理の会など、様々な集まりの場があります。また、地域交流会という会を年に4回行っており、ソバの会をやったり、地域包括支援センターの方に来てもらって体操をしたり、その地区のギターのうまい人に演奏をしてもらうなどして、地域の高齢者に大変喜ばれています。非常に好評なので、次回からは高齢者に限らず、全年齢を対象に実施することにしました。1回で参加できるのは30人程度なのですが、30の方がみんな生き生きと参加されています。</p> <p>最後に質問ですが、「取り組みの方向性」について、2つの地区と3つの地区があったり、子どもと高齢者が一緒になっている所と分けて書いてある所がありますが、なぜ地区ごとに違うのですか。</p>
<p>事務局</p>	<p>資料編のところに、懇談会の詳細な結果を載せていますが、今回は、各地区のグループごとに、地域の取り組み、将来像、スローガンのものについて案を出していただきました。それに基づいて、項目を挙げているため、地区ごとに違ってきます。</p>
<p>小平委員</p>	<p>「地域がめざす将来像」についても、他の地区は「～しよう」という形になっているのに、石橋中学校区だけが違っており気になっていたのですが、これも地域の方がそのように考えられたということですか。</p>
<p>事務局 伊沢委員</p>	<p>そうです。</p> <p>国分寺中学校区は、自治会加入率がとても少ないので、この計画の周知には十分な配慮が必要だと思えます。また、自治会に入っていたとしても自治会の回覧に細かく目を通さない人もおられるし、広報誌やホームページに掲載されても見ない人もおられると思うのですが、この計画書はどのように配布されるのでしょうか。せっかく策定するので、きちんと行き渡</p>

事務局	<p>って、市民が地域に参加するようにならなければ意味がないと思います。</p> <p>また、分野ごとに担当課が分かれていると思いますが、連携をとりながら、情報がきちんと共有される流れをつくっておいてほしいと思います。</p> <p>周知については、本計画書の概要版をつくり、それを各戸に配布します。</p> <p>庁内の横の連絡については、今回の策定委員会の開設の際も、前段で庁内の検討部会を開催し、横の連携をとっています。今後も引き続き連携をとっていきたいと考えています。</p>
委員長	<p>ほかにご意見がなれば、第3章に進みたいと思います。ご意見等はありませんか。</p> <p>なければ、私から質問させていただきます。今日配布された資料の「下野市社会福祉協議会との協働による推進体制」について、本計画は平成24年度に始まりますが、それとともに、44ページに記載されているとおり、社会福祉協議会では、各地区に社会福祉協議会を設立されることとなります。そこで、今後の社会福祉協議会と市の関係について、説明をお願いしたいと思います。</p>
小林委員	<p>平成23年度中に地域福祉計画が策定された後、それに基づいて、社会福祉協議会において、その計画を実施するための具体的な計画である地域福祉活動計画を策定します。</p> <p>既に、日光市など、活動計画を作っている市町村の視察を行っておりますので、そのような前例を参考にしながら、行政と連携し、各自治会、団体、関係組織等に協力いただいて、平成24年度の1年をかけて活動計画の策定に取り組んでいきたいと考えています。</p>
阿部委員	<p>83ページの協働の図について、子ども会とか育成会は、PTAの中にも含まれているのでしょうか。</p>
事務局	<p>子ども会については、前回の委員会でも話題に挙がって、検討の結果、老人クラブに各団体を含めるということで、老人クラブの後に「等」を入れるという扱いになったと思いますが、別枠で作ったほうがいいですか。</p>
阿部委員	<p>子ども会・育成会というのは、社会構成の中で非常に重要な組織ですので、明記したほうがよいように思います。</p>
曾根委員	<p>私も同意見です。別に書いたほうがよいと思います。</p>
事務局	<p>確かに、子ども会も重要な組織ですので、別に「子ども会育成会」という枠を追記したいと思います。</p>
ジャパン総研	<p>ご指摘のとおりだと思います。子どもを通してつながるという部分も大きいと思われるので、その視点を大事にして、修正したいと思います。</p>

#### (4) その他

事務局	<p>本日頂いた意見を踏まえて修正等を加え、最終版としたいと思います。本来であれば、会議を開いてそれを皆様に確認していただくべきところですが</p>
-----	--

委員長	<p>が、スケジュールの関係があるため、できれば荒木委員長に最後に見ていただくという形にさせていただきたいと考えています。</p> <p>今日頂いたご意見以外にも、これまでの中でお気付きの点がありましたら、ご連絡いただきたいと思います。</p> <p>時間的な制約がありますので、その後の最終的な調整は私と事務局にご一任いただき、最終的な計画書としたいと考えています。そういう形で進めることについて、ご了承いただけるでしょうか。</p>
-----	--

特に異議はなく、了承された

## 7 閉会

事務局	<p>この策定委員会は本日が最終回となります。委員長をはじめ、委員の皆様には、お忙しい中、委員となっただき、また、たくさんのご意見を頂き、本当にありがとうございました。4回の策定委員会を通して頂いた意見を踏まえて、内容の濃い計画にしたいと考えています。</p>
委員長	<p>これまでご協力いただき、ありがとうございました。以上をもって、下野市地域福祉計画策定委員会を閉会いたします。</p>

以上